

2025 年度 事業報告

(2025 年 4 月 1 日-2026 年 3 月 31 日)



INSTeM Inter-field Network for Science,
Technology and Media Studies

一般財団法人 INSTeM

一般財団法人 INSTeM
2025 年度 事業報告

一般財団法人 INSTeM (Inter-field Network for Science, Technology and Media Studies) は、2025 年度の事業として、国内コンベンションの開催、国際シンポジウムへの協力参加、ウェブサイトへのエッセイ掲載、ならびに広報活動等を行った。

各事業の内容は以下のとおりである。

① 国内コンベンション

INSTeM Convention 2026 Spring @ 立命館 OIC 「大人のためのリテラシー：分断の中の協同」

日時：2026 年 3 月 14 日（土）12:30-17:45

場所：立命館大学いばらきキャンパス C 棟 373 ラーニングシアター

《概要》

INSTeM コンベンションは、リテラシーに取り組む各地の個人・団体が一堂に会し、さまざまなリテラシーをめぐる課題や可能性を語り合い、知恵や技法を共有するイベントである。

第3回目となる今回のテーマは「大人のためのリテラシー：分断の中の協同」。4月より開設された立命館大学デザイン・アート学部と共催し、同大学いばらきキャンパスのラーニングシアターを会場に開催した。

1 月末までに応募のあった中から、選考の結果 19 組に出展していただいた。内容は「法とアートデザイン」、「コミュニティサイエンス」、「福祉とデザイン」、「工学と看護とデザイン」、「お酒リテラシー」、「生成 AI との共創」など多岐にわたり、幅広く豊かな実践が集まった。参加者はパネル展示でお互いの活動を紹介しあったり、全体セッションでは共通する課題について意見をかわすなど、活発な交流がみられた。



後半には「分断の中の協同：デザインとアートになにができるか」をテーマに、立命館大学デザイン・アート学部の八重樫文氏、INSTeM コーディネーターの毛利嘉孝、代表理事の佐倉統によるパネルディスカッションが行われた。

コンベンションの参加者が適度な距離感の中で交流を深めることができたのは、ラーニングシアターという素晴らしい会場の特性によるところも大きい。会場の提供をはじめ、コンベンションの実現に向けて八重樫氏より多大な協力を得た。

② 国際シンポジウム

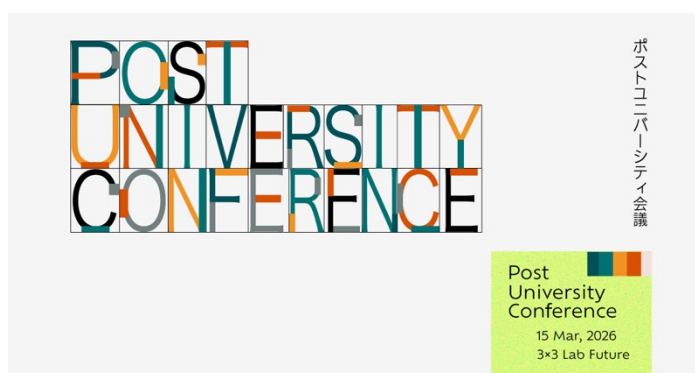
ポストユニバーシティ会議：人文学・アートの未来と AI (Post-University Conference: The Future of Humanities & Art, and AI)

日時：2026 年 3 月 15 日（日）14:00-20:00

場所：3x3 Lab Future

《概要》

東京藝術大学芸術未来研究場、国際芸術創造研究科（GA）主催「ポストユニバーシティ会議：人文学・アートの未来と AI」に協力団体として参加した。本イベントは、メディア環境の変化、AI の普及、グローバル化が進むなかで、人文学の知識、大学の教育や研究、そしてアートのあり方を問い直すことを目的とした。



会議では「ポストユニバーシティ」という概念を軸に、研究者やアーティスト、キュレーターが知と創造力の未来について議論した。イベントの総括者は INSTeM 研究部コーディネーターで東京藝術大学教授の毛利嘉孝であり、三菱地所株式会社の協力を得て大手町の 3x3 Lab Future という会場で開催された。INSTeM は事前準備の一部作業を担った。また当日の第 2 部「AI と知識の生産」セッションにて、佐倉統（INSTeM 代表理事・研究部ディレクター）、水越伸（同研究部サブディレクター）が登壇し、セッションの司会およびコメンテーターを務めた。

③ ウェブサイト、SNS 等

ウェブサイトにオリジナルエッセイを 2 本掲載した。

- ・江上賢一郎「境界から見える歴史を描く チョン・ユギョン個展「KKWANG! 팡!」」
- ・毛原大樹「5 Songs from '5' Manifesto —雑誌『5』と AI による音楽生成の実験」

また、①、②の詳細について、ウェブサイト、Facebook、Instagram、Peatix 等のアカウントを通じて広報した。

以上

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項が存在しないのでこれを作成しない。